

# 令和元年度 「国有林モニターアンケート（第1回）」調査結果

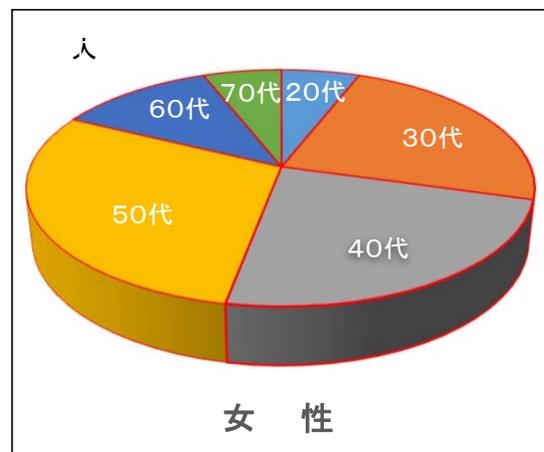
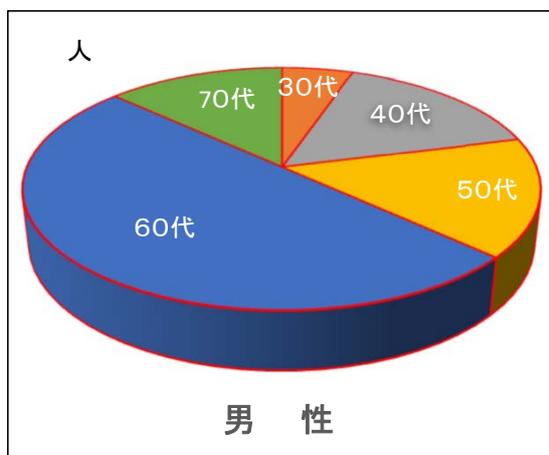
近畿中国森林管理局では、国有林モニターにご登録いただいている皆さまから、今後の国有林野の管理経営や広報活動の参考にさせていただくために、以下のアンケートにご協力いただきました。

今回は、4月に送付させていただきました「近畿中国森林管理局 平成31年度重点取組事項」の内容を中心として設問を用意し、記述での回答箇所を設けましたが、いかがでしたでしょうか。

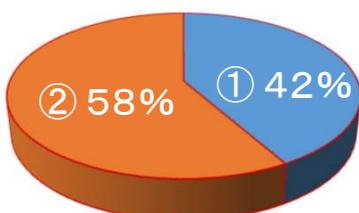
調査時期	令和元年7月		
調査方法	アンケート用紙の郵送による回答及びホームページの専用フォームからの回答		
回収状況	アンケート依頼モニター数	63名	
	アンケートの回答者数	55名	
	アンケートの回答率	87%	

ご回答いただいたモニターの年代別構成 (人)

区分	男性	女性	計
20代	0	1	1
30代	2	4	6
40代	6	4	10
50代	6	5	11
60代	19	2	21
70代	5	1	6
計	38	17	55



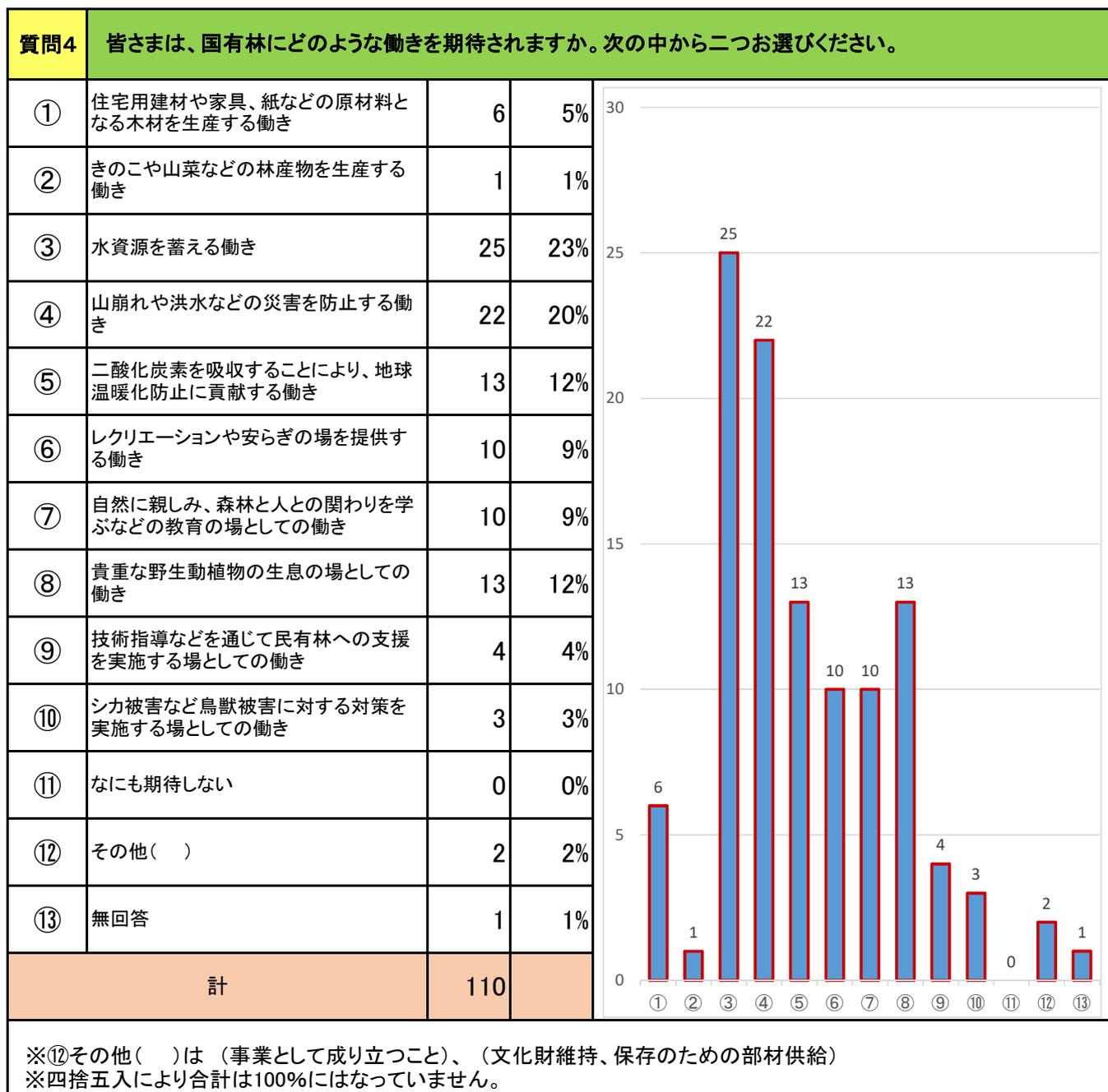
質問1		皆さまにとって国有林は、身近な存在として感じられますか。次の中からお選びください。	
①	国有林は身近に感じられる	23	42%
②	国有林は身近に感じられない	32	58%
計		55	



質問2		質問1で「国有林は身近に感じられる」とご回答された皆さまにお伺いします。そのように感じられた理由をお書きください。	
<input type="checkbox"/> 市民団体等の活動に参加しているため <input type="checkbox"/> 近くに国有林がある <input type="checkbox"/> 災害の頻発により森林保全の重要性を感じているため <input type="checkbox"/> 山に囲まれた土地で育ったから <input type="checkbox"/> 国有林モニターになっているような情報が得られるようになったので <input type="checkbox"/> 国有林内を見る機会があったから <input type="checkbox"/> 観光地にも国有林があることを知ったため <input type="checkbox"/> 登山やピクニックをしているから <input type="checkbox"/> 生きていくうえで大切なものと感じている <input type="checkbox"/> 山のある風景が身近にあるため <input type="checkbox"/> 基本的に木材から全てがスタートしていることがわかったので			

質問3		質問1で「国有林は身近に感じられない」とご回答された皆さまにお伺いします。国有林にどのようなイメージをお持ちですか。	
<input type="checkbox"/> 国有林が近くにない、どこにあるのかわからない <input type="checkbox"/> 国有林とその他の森林との区別ができない <input type="checkbox"/> 山深い場所、へき地 <input type="checkbox"/> 虫が多くて何もなく、うっそうとして暗くて怖い場所 <input type="checkbox"/> 知らないところで、何をやっているのかわからない <input type="checkbox"/> 特別に国が管理している森林 <input type="checkbox"/> 事業として成り立っていない <input type="checkbox"/> 放置状態の場所 <input type="checkbox"/> 国民のためにどう役立っているのかわからない場所 <input type="checkbox"/> 誰でも入れない場所 <input type="checkbox"/> 予算的に恵まれている人工林 <input type="checkbox"/> 今まで国有林を意識することがなかった			

(単位：人)



質問4	選ばれた理由をお書きください
①	日本人として木造建築に係る技術の継承は重要
①	木材流通を活発にして収益を上げることも重要
①	林業で生活できるようなシステムづくりが大切
③	営利目的の使用はそぐわない
③	森林保全のモデルケースにする
③	水資源の環境維持はなくてはならない
③	長い視点で国民福祉のための安全安心な環境の基盤となって欲しい
④	森林全体の事を広く知らせて欲しいから
④	近年多発する災害を防止する働きは、重要度が増している

質問4	選ばれた理由をお書きください
	④民有林ではできないことを率先して行える場所 ⑤二酸化炭素を吸収し、乱開発されない森林 ⑥国民の共有財産としての体験の場 ⑥安らぎの場としての活用 ⑦民間団体と協力して里山の大切さを学べる場所 ⑦教育施設として学校・団体を受け入れる ⑧人間と動物の命を繋ぐ場所 ⑧希少な環境と生物を後世に残す場所 ⑨人材育成や技術指導は、目先の利益追求型の民間には到底望めない ⑩シカ被害対策が進んでいないため ⑫再利用することから自然とつきあい、自然を学習し、事業として成り立つこと ⑫文化財継承のための役割は喫緊の課題
<b>水資源の確保を国有林が中心となって支えるべきという意見が多くありました。また、森林の乱開発等による環境破壊を警戒する意見が次に続きました。</b>	

(単位：人)

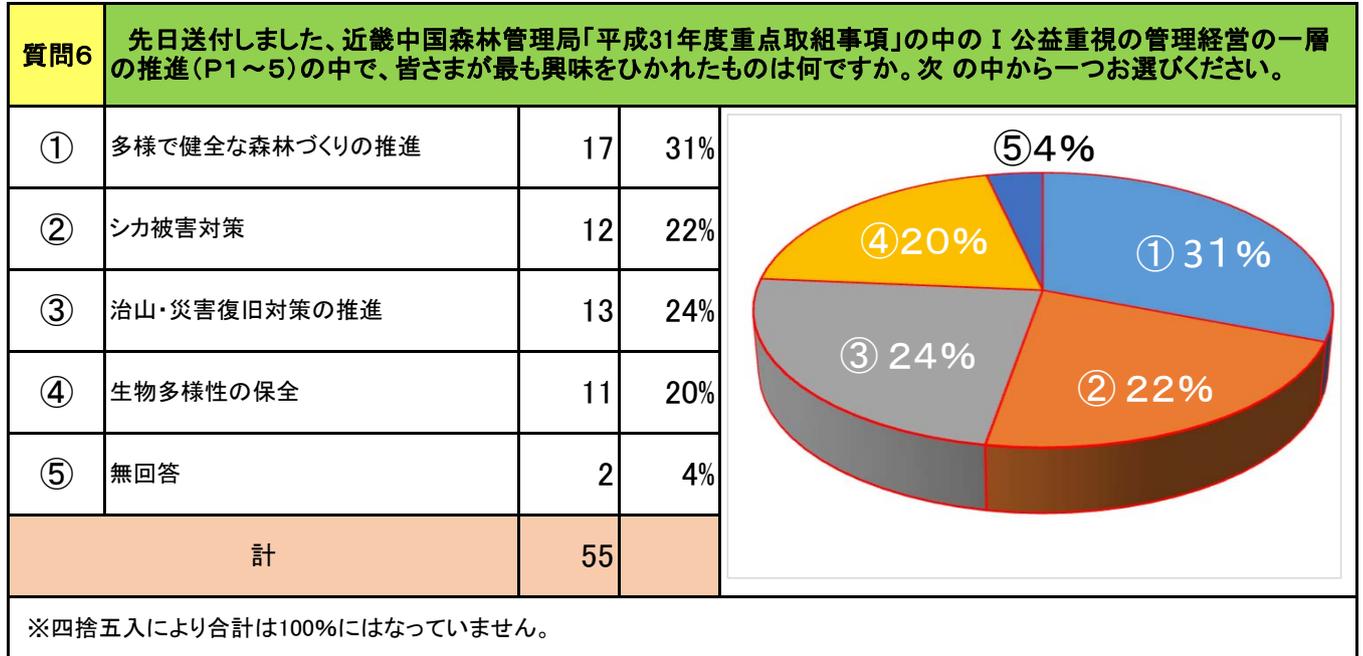
質問5	平成31年度の林野関係当初予算は、約3,400億円計上されていますが、皆さまは、次のどの分野の経費に予算を手厚く配分されるべきだと思いますか。次の中から二つお選びください。		
①	林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を実現するため、間伐や路網整備、再造林を推進する経費	17	15%
②	豪雨災害等、激甚化する災害に対する山地防災力強化のため、荒廃山地の復旧・予防対策、総合的な流木対策の強化等の治山対策の経費	35	32%
③	森林・山村の多面的機能の発揮を図るため、地域住民等による森林の保全管理活動等の取組における林業グループの活動を支援する経費	14	13%
④	花粉症対策苗木への植替の支援、花粉飛散防止・抑制への調査研究に係る経費	9	8%
⑤	森林施業の効率化・省力化や需要に応じた高度な木材生産等を可能にする「スマート林業」を実現するため、ICT等の活用による先進的な取組やその普及のための経費	6	5%
⑥	野生鳥獣被害に対応するため、地域関係者が一体となった被害対策の取組やジビエ利用拡大に向けた取組の経費	6	5%
⑦	新規就業者の確保・育成や林業への就業前の青年に対する給付金の支給等を行うための経費	9	8%
⑧	高度な技術者・技能者の育成や、市町村等の技術者育成の支援に向けた取組の経費	3	3%
⑨	木材需要の創出及び木材産業・木造建築活性化対策の経費	4	4%
⑩	その他( )	4	4%
⑪	無回答	3	3%
計		110	

Category	Number of Responses
①	17
②	35
③	14
④	9
⑤	6
⑥	6
⑦	9
⑧	3
⑨	4
⑩	4
⑪	3

※⑫その他( )は (自然の回復に当てる経費)、(作業の自動化に当てる経費)、(文化財保護のための部材の供給に当てる経費)、(演習林の管理に当てる経費)

度重なる大規模災害の発生により、その復旧に当てる経費と災害の予防のために適切な森林整備に当てる経費が上位を占めました。

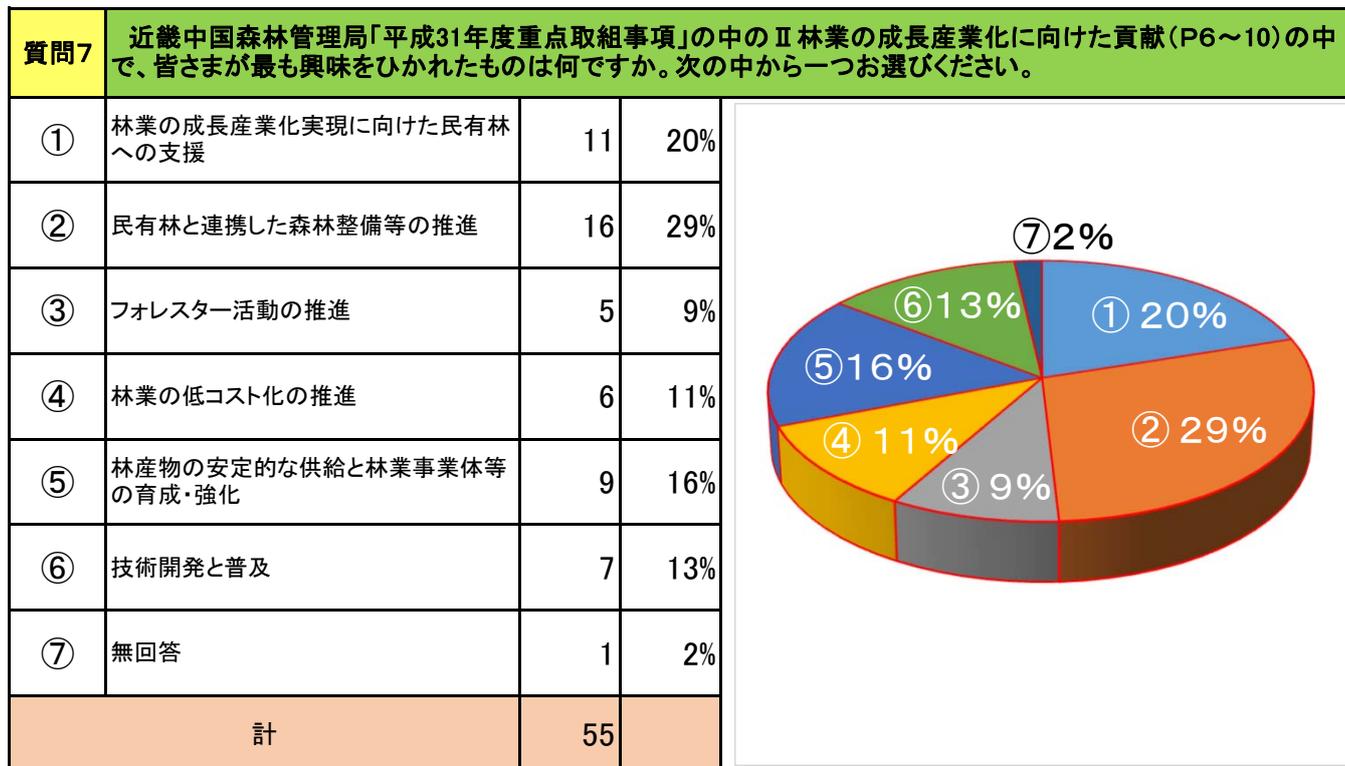
(単位：%)



質問6	選ばれた理由をお書きください
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①国土保全のために大切な取組と思うから</li> <li>①森林環境を子供たちに提供してほしい</li> <li>①地域や自然条件に応じて森づくりも多様性を持つことが必要ということだったので</li> <li>①森林の持つ可能性や本来持っている自浄などを活かし続けて欲しい</li> <li>①樹木構成などコストパフォーマンスを考えた管理・運営が必要</li> <li>①人間生活の観点からの判断がなによりだから</li> <li>①日本国内では、野生動植物だけでなく人間社会全般が森林の恩恵を受けて成立しているため</li> <li>①防災や鳥獣被害の対策は、「多様で健全な森林づくり」ができれば対応できる課題だ</li> <li>①国産材の利用拡大が大切だと思うから</li> <li>②大台ヶ原のシカ被害の状況を見たため</li> <li>②シカ被害の拡大は自然災害の増加や生態系に大きな影響を与える</li> <li>③国有林、民有林を問わず治山・災害復旧に対しては最優先で進めてほしい</li> <li>③治山・災害復旧対策の推進は避けて通れない</li> <li>③復旧だけでなく、予防対策も推進してほしい</li> <li>④人間の目線だけでは本来の森林の魅力は形成できない</li> <li>④生物多様性の保全をまっとうするには、他の項目全てが含まれると思うから</li> <li>④動植物に適した環境づくりが必要</li> <li>④これまで意識したことのない領域であったから</li> <li>④民間ではできない</li> </ul>

「①多様で健全な森林づくりの推進」が実行できれば、②③④の対策もできるようになるというご意見が印象的でした。

(単位：%)

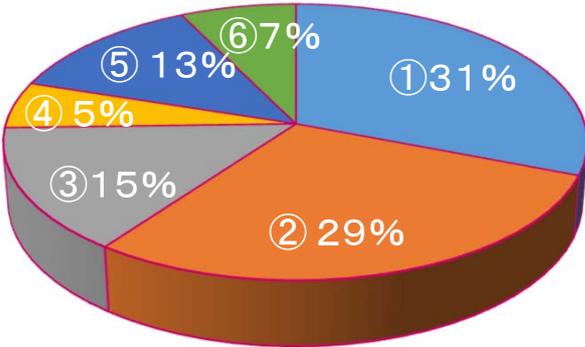


質問7	選ばれた理由をお書きください
	<p>①より多くの人に重要施策を理解してもらう機会の創出を期待する</p> <p>①成長なくしては持続はない</p> <p>①「林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を両立させていくことが、我が国の森林・林業にとって重要な課題」という部分に共感できた</p> <p>①民有林の管理者の高齢化が深刻で、地元住民を指導できる体制と支援が必要</p> <p>①長い年月を要する林業は、安定性が重要である</p> <p>②国有林だけでなく良いわけではなく、民有林だけではなし得ないので、横の繋がりを大切にして森林を守っていく必要がある</p> <p>②地域社会の維持にとっては、官・民の区別なく適切な管理をすることが必要</p> <p>③森の専門家、ボランティアが活動しやすい環境を作ってほしい</p> <p>③ちゃんと見守る活動により、多くの情報が共有されると思われるため</p> <p>③技術的支援、フィールドの提供にて専門人材の育成は今後も重要である</p> <p>③国は山で生計を立てようとする者の意思にどれだけ本気なのか</p> <p>④林業においては、相当なコストを要するといったイメージがある</p> <p>⑤いろいろな木材の活用・供給の取組が大事</p> <p>⑤先人が苦勞して育て上げた人工林が花粉症の元凶でしかないことが悲しい</p> <p>⑤林業が事業として確率されることが大切</p> <p>⑥自動化、機械化の推進</p> <p>⑥花粉症の対策として早生樹の開発に期待する</p> <p>⑥これからの林業は、いろいろな技術を取り入れて管理・開発していかなければならない</p>

<b>質問7</b>	<b>選ばれた理由をお書きください</b>
<p>⑥収入が期待できる方法を確立してもらいたい</p> <p>⑥センダンの木も早生樹としては役に立つことがわかった</p>	
<p>林業に携わる者の高齢化が進行する中、民有林への支援を望む声が多いことがわかりました。</p>	

( 単位 : % )

<b>質問8</b>	<b>近畿中国森林管理局「平成31年度重点取組事項」の中のⅢ国民の森林としての管理経営(P11~13)の中で、皆さまが最も興味をひかれたものは何ですか。次の中から一つお選びください。</b>		
①	「日本美しの森 お薦め国有林」	17	31%
②	森林環境教育の推進	16	29%
③	多様な情報受発信	8	15%
④	伝統文化の継承への貢献	3	5%
⑤	大学、試験研究機関との連携の強化	7	13%
⑥	無回答	4	7%
計		55	



Category	Count	Percentage
①	17	31%
②	16	29%
③	8	15%
④	3	5%
⑤	7	13%
⑥	4	7%

<b>質問8</b>	<b>選ばれた理由をお書きください</b>
<p>① 観光客が環境破壊者になってしまうことを、誰がどの様に阻止できますか</p> <p>① 身近にある森林美を紹介してあるので、一度意識して訪れてみたいと思う。多くの人に森林を身近に感じてもらうことが大切だから</p> <p>① 多くの人に身近な自然に触れる活動を通して、森林の重要性を知らしめる活動が必要だから</p> <p>① 観光資源としての取組は好感が持て、併せて外国語による情報発信の取組に関心を持った</p> <p>① 国有林しかできない特色を出して欲しい</p> <p>① 地域の観光に寄与できる</p> <p>① 原生林であれば人の手が加わっていない事が大切で、人の手が加わった以上は、人の手で管理しなければならない</p> <p>② 教育の場を通して、皆の意識が森林へ向き、前向きな議論が活発になると思う</p> <p>② 「森と生きる、緑を活かす」ことをいかに次世代に繋ぐかが大事</p> <p>② 伝統文化の継承者育成を含めたESDの必要性を強く感じた</p> <p>② 国民が森林環境保全の必要性を知らない限り森は守られない</p> <p>② 親子で里山整備体験などの教育が大切</p> <p>② 関心を持ち、興味を深めて関わり続けることが自然に必要</p> <p>② 何より日本の森林に関心を持たせること、そして後継者を一人でも多く育てる事が大切</p> <p>② 森林環境教育を実施する山を各自治体に一つ作る</p> <p>② 小学校時代での森林への愛着度を増す教育イベントの定着が重要</p>	

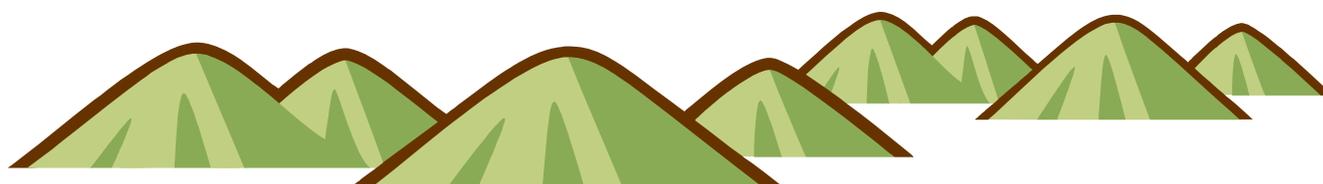
質問8	選ばれた理由をお書きください
	<p>③いろいろな方に林業について情報を発信して欲しい</p> <p>③国有林モニター制度を含めて国民の意見を行政に反映すること、また国から様々な情報を、より多くの国民に伝えることが重要となっている</p> <p>③山の日などを通じて各種イベントをもっと大々的にやるべき</p> <p>③今後の森林行政については、AIなどの情報技術の更なる積極的な活用に期待する</p> <p>③林業の役割と意義が、次世代に引き継がれなくなるから山に興味がない</p> <p>④民有林ではできないし、文化保全には必要不可欠</p> <p>④国有林から神社仏閣の修繕等に木材等を供給することは、大きな役割である</p> <p>⑤さまざまな環境が変化しており、新たな試験研究があってはじめて教育・情報・後世への継承の道筋がつくのではないかと</p> <p>⑤産学官連携は大切</p> <p>⑤ CLTの普及やCNFの研究・活用について研究機関との連携によって、森林の可能性はまだまだ広がるのではないかと</p>
<p>「森林環境教育」について様々なご意見をいただきました。実現には、各地に教育現場となる森林と指導者の確保が欠かせなくなりそうです。</p>	

( 単位 : % )

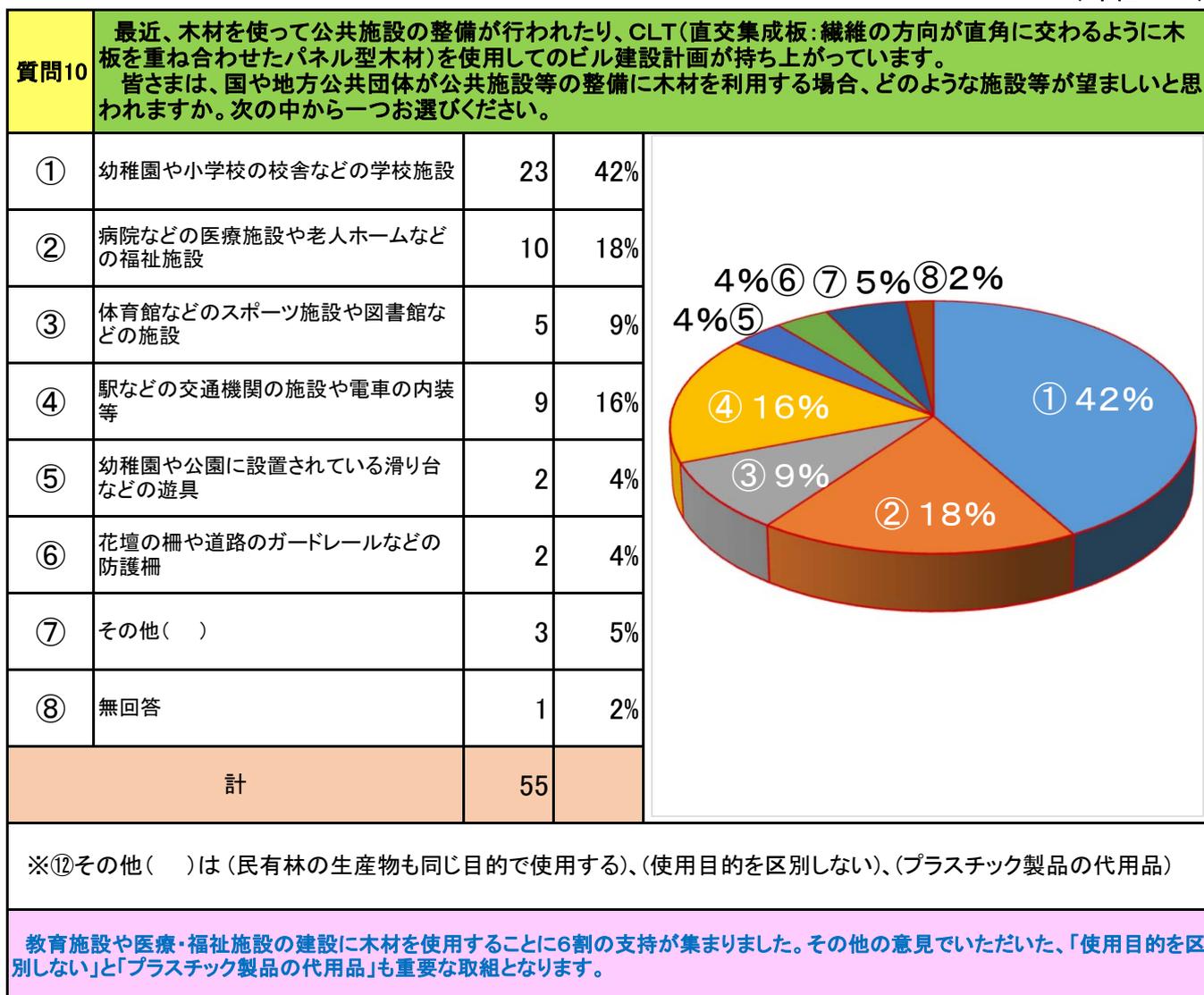
質問9	捕獲したニホンジカをジビエ(狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉)として学校給食の食材に利用している自治体があります。また京都府京丹波町では国産ジビエ認証施設があり、そこで処理された商品は大手百貨店において常設販売をされているそうです。皆さまは、ジビエを利用したいと思われませんか。次の中から一つお選びください。	
①	おいちに利用したい	11 20%
②	一定の基準を満たし品質の安全性が保証されていれば利用したい	21 38%
③	安定的に供給され、常設販売されていればときどき利用したい	8 15%
④	利用したいがどこで入手できるかわからない	4 7%
⑤	ペットフードとしてなら利用したい	2 4%
⑥	利用したくない	8 15%
⑦	無回答	1 2%
計		55

※四捨五入により合計は100%にはなっていません。

自らの食用としては利用したくない方が約2割あり、そのうちの男女の差はありませんでした。



(単位：%)



以上、令和元年度国有林モニターアンケート(第1回)調査結果でした。ご協力ありがとうございました。

**質問11** 近畿中国森林管理局における「平成31年度重点取組事項」やこれまで送付させていただいた各種冊子等の中で、特にわかりづらい表現や専門用語等があればお聞かせください。

**1** **マテリアル**

material 材料、素材を意味します。

**2** **複層伐**

森林を複層状態(森林が樹齢や高さが異なる樹木から構成される状態)にするために行う伐採のことです。

**3** **CLT工場**

Cross Laminated Timberの略称です。一定の寸法に加工されたひき板を繊維方向が互い違いになるように重ね合わせ接着した板や柱を製造する工場のことです。

**4** **人工林**

苗木を植えたり、種子の播付けなど、人の手により森林を造成することによって成立した森林のことです。

**5** **フォレスター**

森林総合管理士。森林・林業に関する専門的かつ高度な知識・技術を有し、「市町村森林整備計画」の策定等、市

町村等へ長期的視点に立った森林づくりを計画・指導できる技術者のことです。  
平成25年度から資格試験が開始され、2018年度には全国で1,274人が登録されています。

## 6 治山事業

保安林(水源の涵養、土砂の流出や崩壊の防備、生活環境の保全・形成等の目的を達成するため、「森林法」に基づいて農林水産大臣等が指定する森林)を守り育てることによって、山崩れなどの山地災害から住民の生命・財産を守ることや森林が持つ水源の涵養機能を高めたり、さらには緑豊かな生活環境の保全・形成等を行う事業のことです。

## 7 そま師

山の樹木を伐採し、生計を立てている者のことで、樵(きこり)と同じ意味です。

## 8 スマート林業

林業の担い手を育成し、IT技術(情報技術の総称)を駆使して森林管理を可視化(人間が直接見ることができない事象を画像・グラフ・図表等にする)することにより、安全面でもコスト面でも多角的に効率のいい林業経営ができる取組を指します。

## 9 森林共同施業団地

地域における施業集約化の取組を支援するため、民有林と連携することで事業の効率化や低コスト化が図られる区域について、民有林野と連結した路網の整備と相互利用の推進、計画的な間伐等の実施、民有林材との協調出荷などに取り組む団地(森林)のことです。

## 10 フォワーダ運材

造材(丸太に加工)した材をトラック運搬が可能な場所まで林内運搬車(フォワーダ)で木材を運ぶことです。

## 11 列状間伐

間伐の方法の一つで、作業の低コスト化を目的に、伐採や搬出に都合の良いように一定の間隔で列状に間伐を行う方法を指します。

## 12 かかり木

チェーンソーで伐採した木が予期せぬ方向に倒れ、他の立木にひっかかり木の先端が地上まで落ちてこない状態を指します。